

サービスアクティビティの内省と目標設定 # 2

9月25日にシーサイド、オードテラズの小学校で二度目の活動をしました。サイトに着いた時間は2時半でした。サイトに着いていつもどうり子供達が丸の形に座り、CPYの標準を子供達とCPYの人達が声に出す事が始まりでした。前回と同じく、CPYの標準が終わって次がお菓子の時間、その間私達は生徒と会話をしました。お菓子の時間が終わり、生徒全員、宿題の時間でした。生徒はテーブルに座り、私達は別々にわかれ宿題を手伝いました。生徒の宿題は本読みで、本を読んだ後自分の感想を紙に書いていました。基本的に生徒の宿題は数学と国語で、数学の場合は足し算と引き算と割り算、国語は本読みや自分で文章を書いたりする練習をしていました。宿題の時間が終わり、その次私達が日本語を5年生の子供達に教える時間でした。私達と生徒達は別の教室にうつり、教室に入って生徒が机に座り、私達はみんなの前に立ちました。二回目の時生徒はいつも10人で教えていましたが、8人で教えました。二人は来ていませんでした。二回目の活動は生徒達の名前をカタカナで教える事と日本語で色を教える予定でしたが、時間があまりなく、名前をカタカナで教える事しかできませんでした。生徒の名前をカタカナを教える方法は私達が四つのグループ別々にわかれ、小さいグループで生徒の名前をカタカナをし教え、その小さいグループで一人ずつ名前をカタカナで書き、書いた後生徒と一緒にカタカナの発音の練習とカタカナを書く練習をしました。何回か書く練習と発音をして終わった後子供達のフォルダーを配り、生徒達がフォルダーをカタカナで名前を書きました。それで生徒が帰る時間になり、フォルダーに名前を書いて、クラスを終了しました。

活動をしてる最中にうまくいったところは生徒達全員、カタカナを書く事で興奮し、カタカナを書く事を楽しみにしていました。個人でカタカナを教えていましたが、

生徒がカタカナを書く事がうまくいきました、後カタカナの発音もうまくいきました。ほとんど生徒は去年の日本人の留学生とアメリカ人のサービスマーケティングで経験した事がある子でみんな分かっていました。個人的に問題点だと思ったのは、それぞれ私達がグループで別れた時、人それぞれカタカナを教え終わる時間がバラバラで生徒は机に座ってなく、外出たり暴れていたのが問題だと感じました。やはり、自分が机に座って下さいて言っても生徒はゆうこと聞かない、怒るほどではなく、優しくほどではなく、丁度いい感じで生徒が泣かない様に言うのが難しいと思いました。なぜならば、私達が何も言わないと生徒はなんでもしてもいいと考える事が多いので暴れるのではないかと感じました。

次回からは何回も繰り返しで生徒が立ち上がってはいけない事や先生が話してる時は生徒は話しちゃいけない事を言うのが重要だと思いました。今回は前もって教室のルールを生徒に言う事、そのつなかりで、サイトダイレクターがいなくても生徒が静かにせず、自分達が駄目なら駄目と言う様にする事が目標の提示です。活動を通して感じた事は、我々は先生なので責任がある、私達がしっかりしてないと先生が生徒から従う様になる事が自分で感じました。ちゃんと物事を言わないと利用されてる事を学びました。現実的に友達や仲間に利用される事と同じで、つなかりがありました。私がもっと知りたい事は責任を持ってしっかりして、うまくいく事はどうやってするのが最も知りたいです。サービスマーケティングの成果のつなかりでは「サービスと社会的な責任」です。この成果は社会的な責任を理解し、プロの活動や知識を長く未来の事で分析をすることです。このつなかりで責任は他に対し頼り、整理してやる事が必要だと思います。